

第 11 回遠州広域行政推進会議 議事要旨

1. 日 時 平成 28 年 7 月 11 日（月）15:00～17:00
2. 場 所 掛川市役所本庁舎 5 階 議員全員協議会室
3. 出席者 浜松市長（座長）、磐田市長、掛川市長、袋井市長、湖西市長、御前崎市長、菊川市長、牧之原市長、森町長
4. 概 要 以下のとおり。

広域連携による文化財の保護と活用について

資料 1-1 等に基づき、事務局（浜松市文化財課長）より説明。その後質疑応答。

（掛川市長）掛川市でも日本遺産の登録に向けて検討しているが、例えば今回のものとバッチングしても問題ないか。

（事務局）日本遺産には「地域型」と「シリアル型」の 2 種類があり、掛川市が考えているものは「地域型」に該当し、三遠南信は「シリアル型」となる。同一市町村で複数の申請を行っても問題ないと聞いている。

（掛川市長）高天神城は今川氏が築城したものだが、今回のパネルにない。これがないと歴史的遺産として不十分と考えるが、どうか。

（事務局）今回のパネルは、各市町の文化財担当課から 5 点を上限に推薦いただき、作成した。ただし、それぞれで使用する場合は、点数を制限するものでなく、各市町で独自に追加することもできる。

（浜松市長）文化財の保護については、遠州広域の共通テーマに関するパネルの巡回展を引き続き開催すること、また、三遠南信の無形民俗の日本遺産登録に向けて取り組んでいくこととする。

健康寿命の延伸に向けた連携について

資料 2-1 に基づき、事務局（浜松市企画課大都市制度・広域行政担当課長、浜松市高齢者福祉課長）より説明。その後質疑応答。

（御前崎市長）市立病院の鮫島先生の講演会において、東北大学との研究により、お茶 1 杯飲む人と 5 杯飲む人とでは、認知症に差が出るとのことであった。老人会などでもこうした話を紹介している。

（掛川市長）今年 1 月に東北大学の栗山先生に、現在の進捗状況と今後の取組について直接意見交換した。コホート研究については、更に踏み込んだ調査も必要ということで、実際は難しいということだった。鮫島先生が話されたことを話すのはいいと思うが、学術研究となると、国際学会に認知されることが必要である。掛川の介入試験の結果とは言えるが、学術的に意味ある研究の結果であるとは言えない。

（浜松市長）三ヶ日みかんの機能性食品の事例では、どの程度の期間を要したのか。

- (事務局 (浜松市農業水産課長補佐)) 検証期間は4年程であった。
- (御前崎市長) 各市町それぞれお茶をPRしていたと思うが、効能も併せてPRした方がいい。
- (浜松市長) 機能性食品制度も必要に応じて活用すればよいと考える。お茶の効能研究は、県に進めてもらうことが適当ではないか。
- (御前崎市長) 鮫島先生からは、実際に人で試験するには1億5千万円から2億円かかるということで、巨額の費用が必要である。
- (浜松市長) 特保の取得にも同程度の費用を要すると聞く。そうした事情も踏まえ、県に任せるべきではないか。
- (掛川市長) お茶の効能研究は県立大学でも進められているが、学術的に十分耐えうるものがない。大学としてそうしたハードルをクリアするには、相当厳しく条件を揃えないといけない。実際やってみたものの、いい結果が出なかった。一方、同じ条件でスポーツの研究を行ったところ、スポーツをしていた人の数値は良かった。ただ漫然とお茶を飲んでいただけでは駄目と考えている。掛川の介入試験は、3か月間、通常のお茶は飲まずに、粉末やカプセルの本物とプラシーボで調査した。
- (袋井市長) その成果を、お茶の効能として学術的に説明することはできないのか。
- (掛川市長) 検体数や長期スパンでの調査を要する等の課題があり、医学的に説明するには不足である。自分は、国際学会で効能をしっかりと認めてもらうことが大事と考えており、改めて効能を調査するのであれば、県に関わっていただく等の対応を考える必要がある。
- (袋井市長) 県立大学には薬学部もあるので、そうした機関の活用も考えられる。
- (事務局) 県も健康寿命トップを山梨県に奪われ、奪還に向けた取組の一環としてお茶に係る取組に力を入れているようであり、引き続き情報収集しながら探っていきたい。
- (浜松市長) 知事に直接話せば、一気に進むのではないか。
- (磐田市長) 全35市町に強制して進めることは難しいと考えるが、遠州地域は協力の覚悟があるので、共同で研究できないか県に提案する方法もある。
- (湖西市長) 湖西市は、現在お茶を生産していない。
- (牧之原市長) 茶業会議所の理事を務めているが、各JAに対しお茶にさらに力を入れようと声をかけたところ、JA富士はお茶の木を抜いて新しい作物を作り、JA清水はみかんに重点を移しているとのことであった。またJA静岡からは茶の売上が20億円から10億円に半減し、JA藤枝からは藤枝茶は消えると発言された。原田製茶の原田からも、今後、牧之原以外のお茶はなくなるとの発言があった。牧之原のJAから、何の作物がいいか一生懸命考えているところという発言があり、茶業会議所の理事会自体がそうしたムードである。いくら行政が真剣に考えてもJAにその意識がないことが大きな問題で、そうした点からも掛川は素晴らしい。
- (掛川市長) 原田製茶は、生産性が重要だと常々言っている。つまり、平坦な茶畑はいいが、中山間地では商売として厳しいということである。
- (牧之原市長) 今、伊藤園と原田製茶が平坦な茶畑を積極的に購入している。また、本日

- の会議ではフィルターインボトルで掛川茶を提供いただいたが、こうした飲み方は最高と感じる。他の会議でもこうした用意をされているのか。
- (掛川市長) 最近では、例えばイタリア製のカップに緑茶を注ぎ、砂糖を入れて飲む洋風の飲み方等も行っている。農協が先に立ってということがないので、行政で進めている。
- (浜松市長) 天竜で良質のお茶を作っており、洞爺湖サミットで使われたものがある。神奈川県の方が1本2万円で販売しており、ワインの代わりにフランス料理のレストランに出ている。こうした形で付加価値を付けると随分違うのではないか。
- (掛川市長) 急須で茶葉を入れて飲むような一般的なものは駄目と感じる。
- (牧之原市長) 今は、100グラム300円のティーパックで売られている。味はそれほど変わらないので、勝負にならない。例えば国会議員が会合等で日本茶を積極的に使う等の取組ができないか。
- (浜松市長) 以前やったが、誰がお茶を煎れるのかといった話が出て、止めてしまった。
- (掛川市長) 以前、小笠山でみかんを生産していたが暴落時に皆、手を引いてしまった。生産者は清水の住民で、市況が悪化したことですぐに撤退した。掛川は、自分の土地で茶を生産しており、茶価が下がったからといって簡単にやめるわけにいかない。
- (袋井市長) 大井川の改良区も、そうした背景から財政的に厳しいと聞いている。
- (牧之原市長) 相当程度行政が補助金等を支出しており、課題が多い。
- (浜松市長) お茶は、県も巻き込んで検討していく。介護予防は、連絡会議等を使って研究していくことで、継続して取り組むことで結論としたい。

地域資源を活かした広域観光の推進について

資料4-1等に基づき、事務局（浜松市企画課大都市制度・広域行政担当課長）より説明。その後質疑応答。

- (牧之原市長) 井伊直虎がNHK大河ドラマに取り上げられたが、どのような誘致運動をしたのか。
- (浜松市長) むしろ降ってわいたような話である。これまでも直虎の地元である引佐では取組を進めており、かつてNHKに提案したこともあったと聞いている。ただし、想像するに静岡文化芸術大学にいた磯田道史教授がNHKのドラマのアドバイザーをやっていることが大きかったのではないか。大河ドラマは、今まで主人公を男女交互に設定しているとのことで、女性の主人公は、歴史に埋もれている面白いテーマを発掘してドラマ化するというのが制作方針らしい。磯田教授がNHKから相談を受けた時に、井伊直虎を含めて3人程提案し、井伊直虎が取り上げられたと聞いている。
- (牧之原市長) 真田丸は、上田市が随分陳情や署名をやったと聞いている。
- (浜松市長) NHKで制作方針があり、いくら陳情したからといって、どうということはない。我々も家康公400周年のときに、陳情や要望を随分行ったが、全く駄目だった。やはり磯田教授が浜松にいたというのが大きかったと考えている。

- (掛川市長) 二宮尊徳を主人公とした大河ドラマをNHKなどに陳情したが、華がなく難しいと言われた。作戦を途中から切り替え、大河ドラマでなく5回シリーズもの位でドラマに取り上げてほしいと言ったが、全然駄目だった。
- (湖西市長) 150周年を機に、豊田佐吉を数回もののシリーズでいいからとNHKにお願いしたが、動いてくれない。独自の考え方で動いているということであった。
- (御前崎市長) 直虎では、新野左馬助も関係するので御前崎を取り上げてほしいとNHK静岡局長に頼んだが、そうしたことは一切できないと言われた。ドラマの中で出るもののPRをNHKではやらないので、自分達でやってくれということだった。
- (湖西市長) 観光客の中には、一つのテーマに惚れ込んで各地を回る人がいる。古城だけに絞っても、この地域の中に9つある。寺、城址、祭り等をシリーズとし、遠州として一つのテーマに基づいた宣伝をしてほしい。特定の関心を持った人をターゲットにPRするのはどうか。
- (菊川市長) 静岡大学の小和田名誉教授は歴史の第一人者であり、彼に話せば面白いアイデアが得られるのではないか。
- (牧之原市長) 井伊氏はもとより、横地氏や勝間田氏といった、地縁、血縁などで相互の関係性が深い所から何か出せないか。
- (浜松市長) 文化財の連携取組のように、共通テーマを設定して取り組んではどうか。
- (掛川市長) 井伊直虎が大河ドラマに決まった時、小和田教授から連絡があり、直虎の許嫁が掛川の「じゅうくしゅ」という所で暗殺されている、そうした場面で掛川が出るのではないかとのことだった。しかし、その場所は平将門が斬首されて首塚があるという話もあり、何が本当か不明である。
- (浜松市長) ドラマの制作側の都合でいうと、全くの仮想人物は駄目だが、実在の人物である程度謎めいている方が、いろいろな脚色ができる都合がいいようである。また、大河ドラマは最後の3分でゆかりの地の紹介等を放送しているので、何らか出る可能性がある。
- (掛川市長) 天竜浜名湖鉄道は、沿線に直虎ゆかりの地を数多く持っており、この機会をしっかりと生かすべきである。天竜浜名湖線市町会議も予算を増額している。
- (湖西市長) 直虎のドラマ館も始まるので、森町も含め沿線市町で力を入れる必要がある。
- (森町長) 森町は直接直虎に関わるものがないが、先程話題の出た古城については、いろいろとマニアックなものも含めて存在している。
- (磐田市長) 最近、新聞等でも直虎関連の話題を見ない日がないが、浜松では、直虎は盛り上がっているのか。
- (浜松市長) 一時より徐々に盛り上がってきている。ところで、インバウンドについてはどうか。
- (菊川市長) 近年、中国人観光客が急増しているが、ここ3カ月ほど減ってきている。
- (掛川市長) 掛川にあるホテルに沢山宿泊すると聞いたため、実際どの程度市内に滞在しているか調べたところ、30分程度だった。要するに、掛川に泊まっても、すぐ新幹線に乗って出てしまうということである。外国人観光客は街中にWiFi機能がない

- と全然歩かないというので、まずはそういう対応をしていかないといけない。
- (浜松市長) 浜松も夜に来て朝出かけてしまうと聞く。ホテルは恩恵を享受しているが、それ以外のメリットがない。館山寺は、それほど外国人観光客が宿泊していないと聞いている。
- (事務局 (浜松市観光・シティプロモーション課長)) 館山寺は日本人客に力を入れている。
- (浜松市長) 一般に、旅館は中国人の受入を嫌がる傾向にあるようである。結果、外国人客はビジネスホテルの素泊まりに集中する。旅館が従来からのビジネスモデルを変えようとしなかったことを官房長官も嘆いていた。
- (牧之原市長) 東京は皆オリンピックを目指して改修しておりホテルが使えなかったり、宿泊料金が高騰している。外国人観光客 2,000 万人の現状でアップアップなのに、安倍政権で 4,000 万人を目標に掲げていて、本当に受入れ可能かと心配になるほどである。客を増やすとなると、大半が中国、韓国、台湾からとなるが、こうした人たちが泊まり、食べ、買い物する場所がどうかという話になり、県内を見ると十分でない。静岡県内にそういうものを作らないと、せっかく静岡空港に降りても、すぐ出ていってしまう。そうしたインバウンドのインフラを作らないと滞在しない。牧之原市は「made in Japan by China」という考え方に立ち、中国から投資を受け入れてホテルと一緒に作る。合弁と一緒に投資をすれば 両国の関係が悪化しても商売のために日本に客を送り込んで泊めていく。地方創生の加速化交付金を活用して進めており、そうした交付金を使って対日投資をやっているのは牧之原だけということで、経済産業省からも注目されている。ここ 10 年で、製造業が海外に流出し、地元の経済、雇用、税収も流出してしまっただが、これを取り返す意気込みで進めている。お茶の販路拡大も、中国人に任せている。
- (掛川市長) インバウンドについて、来日 1 回目は京都や東京などに向かうのも仕方ないが、リピーターの観光客を狙ってどのように情報提供し、接待をするかが課題と考えている。
- (牧之原市長) 相手の旅行会社のニーズを丁寧に聞いて、できる限り便宜を図ることが有効である。先日も、中国の修学旅行で日本に来たいという話があったので、浜る教育委員会を説得し、市内で一泊することを条件に受け入れた。
- (浜松市長) 観光で人が集まり賑やかになるのはいいことだが、税収増には必ずしも結びつかない。
- (袋井市長) イメージが大事であり、スポーツ観光などはどうか。浜名湖ではいろいろなスポーツができる。自転車で地域を周遊するのも良いと思う。健診も含めて 2 泊 3 日のツアーにしてはどうか。
- (浜松市長) 衝撃的な話だが、京都市はインバウンドの恩恵を最も受けているはずだが、税収はリーマンショック前の水準に未だ戻っていない。観光関連の税収は、わずか 7 億円という。実際、飲食業などは非正規社員が多いため、仮にこうした雇用が増えても個人市民税の増にあまりつながらない。

- (牧之原市長) 先ほどの安倍首相の所信表明では「観光」「インバウンド」を冒頭に触れていた。政府としてこうした分野に重点投資するというメッセージではないか。
- (浜松市長) 飲食、旅館など国内型産業の生産性をアップしないと十分な波及効果が見込めないのではないか。
- (牧之原市長) フランス、スペイン、イタリア等のように、その地域で生産されるもので勝負しないと、高付加価値化は難しいのではないか。農業やサービス業が工場勤務より魅力を感じるような好循環を作り出せるか。
- (湖西市長) 15年前にコペンハーゲンでノーベル賞のディナーを体験できるツアーに参加し、15,000円でそのディナーを味わうことができたが、その場で、毎年デザインが変わるノーベル賞のディナーで使用するグラスが数千円で販売されており、思わず購入した。ノーベル賞でもしっかりと儲ける仕組みができており、感嘆した。
- (牧之原市長) 今度、東海市長会が志摩で開催される。先日サミットが開催された地であり、ぜひサミットの晚餐を再現してほしいと提案している。
- (掛川市長) 袋井市長から提案があった、観光やスポーツなどの地域共通テーマは非常に重要と考える。広域行政による観光振興では、一つしっかりした軸を置くことが大切である。
- (袋井市長) この地域では、お茶やスポーツなどが適当である。
- (浜松市長) 以前、台湾からモニターを連れてきて、この地域を自転車で回らせたことがある。地域には、いろいろなテーマを設定する可能性がある。
- (湖西市長) 工場見学も一つの候補となるのではないか。
- (御前崎市長) 現在、御前崎港にクルーズ船を誘致しようと進めている。
- (牧之原市長) 同じようにクルーズ船を受け入れている清水港は大変な状況にあるようである。300人の乗船者が上陸しても、一度に食事する場所がないため、各地に分散してしまい、メリットがないとのことである。御前崎市も市単独では同じ課題を抱えているが、地域全体でその需要を満たすことができれば、メリットを共同で享受できる。
- (浜松市長) 浜岡原子力発電所の巨大な防波壁も名物となるのではないか。まとめとして、本日の意見を踏まえ、直虎はじめ井伊家、徳川家、今川家、武田家など本地域の魅力ある歴史資源を活用して地域活性化を図るため、各市町の観光部局が十分連携して広域観光に取り組んでいただきたい。